

藤田 博保（ふじた・ひろやす）

1、プロフィール

『情っぱりとシャモ』や『ブチ熊』など青森県の厳しい自然を背景に、人間と動物とのかかわりを多く取り上げている作家である。

<生没>

1924(大正 13)年5月 21 日 ~ 2007(平成 19)年9月6日

<代表作>

児童文学作品集『情っぱりとシャモ』『ブチ熊』『耳切りタロウ』

<青森との関わり>

北津軽郡鶴田村(現鶴田町)に生まれる。本県を素材とした農村小説や児童文学の作品が多い。

2、作家解説

大正 13 年5月 21 日、青森県北津軽郡鶴田村(現鶴田町)に生まれる。旧制仙台高等工業学校土木科中退後、昭和 23 年から中弘南地域の中学校教員。数学科担当。昭和 55 年退職。教職中から農村小説を書き、「十六歳」で第 14 回地上賞を、「嫁の位置」で第 21 回地上文学賞を受賞。後、児童文学に転じ「甚吉とシャモ」(後「情っぱりとシャモ」と改題)で昭和 50 年度の講談社児童文学新人賞佳作を受賞する。現在、日本児童文学者協会会員。

「情っぱりとシャモ」の主人公は、著者の生地鶴田町に実在した人物であるという。“シャモ馬鹿”といわれながらも、シャモの訓練にうちこむ凄まじさに、子供の頃の著者はいたく感動し、この真摯な生き方を、ぜひ子供たちに伝えたいと考え書いた作品である。『ブチ熊』は、熊狩りに生命を賭けるマタギの、はりつめた生き方を書いた作品であり、このようにふるさとの風土の中ではげしく生を燃焼させる人々を好んで作品化している。

3、資料紹介

○『情っぱりとシャモ』

図書

1976(昭和 51)年9月

215mm × 150mm

それまで農民小説のみを書いていたが、応募した「甚吉とシャモ」(『情っぱりとシャモ』と改題し出版)が昭和 50 年度講談社児童文学新人賞佳作を受賞し、そのことがきっかけで以後児童文学一本で取り組むこととなる。この作品は、生地北郡鶴田町で幼小時によくみかけたシャモけんかを想定し書いたものという。